



No. '21-2

(No.105)

Apr.2021

ISGG NEWSLETTER

伊東市善意通訳の会

C O N T E N T S

1. 南伊豆の伝説	会員 菊池 善次郎	2
2. 英語らしさ、について On the Town 4	会員 水谷 順	4
3. スペインでの思い出	会長 稲葉 尚子	7
4. 思い出の中国旅行	会員 相良 恭子	11
5. 腰痛改善に努めて	会員 小松 二美	13
6. 伊東の史跡紹介	会員 小西 恒男	15
【事務局便り】		19
【編集後記】		19



桜の里のライトアップと
満月に浮かぶ大室山

南伊豆の伝説



会員 菊池善次郎

毎日、コロナ、コロナで日が暮れる。新聞、テレビ、インターネット、「コロナ」の話題のない日は 1 日も無い。1 年 4 ヶ月もの長い間、ずーっとである。日本は今正にコロナ感染第 4 波に突入中。東京、大阪、神戸など大都市を中心に感染者は再び増え続けている。加えて英国やブラジル生まれの強力な感染力があるとされる変異株ウイルスが日本でも急増し始めた。まだまだこのウイズコロナの時代は終わりそうもない。企業や個人の行動は長い間制限されています。現役の方々、本当に大変です。飲食店、旅行業関係者、飛行機などなど、大変な時代だと思います。特に医療関係者の苦労は想像するだけで頭が下がります。

私達善意通訳の会の活動も各地 NEWSLETTER によると全国的に著しく制限されています。外国人の訪日が殆んど無い現状では当たり前といえば当たり前です。しかし私達は一人ひとりが国の方針に従って「しっかりと」「強い警戒感をもって」「徹底した」感染対策をすることは国民としての責務であると考えます。1 日も早くコロナフリーの世の中になることを切に願って日々を過ごしています。

そんな中、日本でも遅ればせながら今月からコロナワクチンの接種が始まったことはただ一つの明るいニュースです。丁度、長い間厚い暗雲に覆われた空の一角にちょっとばかりの雲の切れ間が見えた様な感じです。

コロナの話はニュースだけでたくさんだ！と云う人もおられようかと思い今回はコロナのない、むかし、むかしの話を記事にしました。

南伊豆の伝説を一つ紹介します。

私は伊豆半島南端、南崎村（現南伊豆町）^{おおせ}大瀬と云う集落に生まれ、育ちました。大瀬は後ろに山あり、前に海あり、岩場の海岸線を持つ半農半漁の集落です。山が海に突き出したところは崖が多く、海には高さ数十メー



南伊豆町大瀬の海岸

絵=筆者

トルの大岩や奇岩あり、絶景に恵まれた気候温暖、風光明媚なところです。

海岸の奇岩の一つに「^{みのかけいわ}蓑掛岩」と呼ばれる高い一群の岩があります。以下はこの岩にまつわる史料に基づく話と大瀬で語り継がれていた話を合体させたものです。

＝伝説＝ “^{みのかけいわ}蓑掛岩と^{えんのぎょうじゃ}役行者”

むかし、むかし、今から 1300 年ほど前の飛鳥時代のことです。奈良の都に一人の行者がおりました。

名前を^{えんのおづめ}役小角といいました。人々は^{えんのぎょうじゃ}役行者と呼んでいました。小さい時から山にこもり厳しい修行を重ね、^{しゅげんどう}修験道を極めました。日本の修験道の開祖と言われています。

彼の^{ごう}業は空をも飛ぶことが出来るほど人間の行動を超えた超能力と霊力を持っていたと云われます。

当時、国を治めていた^{もんむ}文武天皇は「役行者はその超能力と霊力によって人心を惑わすのではなかろうか」と彼に恐れを抱く様になりました。

当時、朝廷に仕えていた^{からくにのひろたり}韓国広足という^{じゅじゅつし}呪術師（まじない師）がおりましたが、何かと云うと役行者に対抗意識を持ち、度々朝廷に「役行者は危険人物である」と告げ口を行いました。とうとう役行者は捕らえられ伊豆の大島へ流刑となってしまいました。

伊豆の大島に住むようになった役行者はその後伊豆の山々や富士山までへも飛行して更に修行を重ねたということです。

ある日のこと大島から伊豆の方へ飛行中雨に遭い着ていた飛行の^{みの}蓑が濡れてしまいました。

「どこか蓑を乾かす所はないだろうか」

と思いながら飛んでいると、丁度伊豆半島の南端、大瀬村の海岸に高さ数十メートル、高い塔の様に尖端がとがって空にそびえている 7～8 個の岩が見えました。

「よし、あそこの岩で一休みして蓑を乾かすでしょう」

そう云うと役行者は一番高い岩の頂上に舞い降りました。そしてそこで蓑を乾かしながら一休みし、その後再び伊豆の山へ向ったということです。

以来、大瀬村の人達はそこの岩を役行者が蓑を掛けて乾かした「^{みのかけいわ}蓑掛岩」と呼ぶ様になりました。

（おしまい）

因みに私達の住む伊東にも沢山のむかし話や伝説があります。城ヶ崎海岸の『半四郎落し物語』や『大

室山の二人妻伝説』、『大蛇穴』など外国人の観光案内を引き受けた時、時々現場で話をしたところです。

残念ながら上記「蓑掛岩」伝説については外国人に話す機会はありませんでした。

英語らしさ、について On the Town 4



会員 水谷 順

アメリカのクルマ社会 続き

アメリカの自動車事情をもう一回。クルマ社会は日本もアメリカも同じとはいえ、国土の広さも道路事情も違うので、独特のものもあります。また、自動車産業はアメリカが世界の先端を切って発達した部分があるので、英語圏の中でもアメリカ独自の用語が幅をきかせているとも言えます。

自動車の部位の言い方

前回、方向指示器はアメリカではBlinkers、イギリスではWinkersだと紹介しました。クルマのいろいろな部位の英語表現は、イギリス圏とアメリカ圏では違うものが多くみられます。そして日本ではイギリス風の表現をカタカナにして使う場合が多いので、日本人がアメリカで暮らすと、クルマの部位についての言い方の違いに戸惑いがちです。いくつか見てみましょう。

ハンドルは、アメリカではSteering Wheelです。バックミラーはRearview Mirror, フロントガラスはWindshield, ボンネットはHood, ホイールキャップはHubcap, ナンバープレートはLicense Plate. ところがアメリカ流の表現が使われて、イギリス風は使わないものの中にはあります。例えばフェンダーはアメリカ英語そのもの、イギリスではWingだそうです。日本語の外来語はどこから持ってくるか、あまりこだわらないので、それをそのまま英語に戻して使うと通用しない場合もあります。このことは自動車用語だけに限らないので、後日別の機会に取り上げるつもりです。

自動車売る

自動車を買換えるため、今まで乗っていたものを処分する、これは日米同じですが、日本では「下取り」が基本ですよね。アメリカでも下取りはありますが、アメリカ人はお金には細かいですから、少しでも高く売ろうと個人売買が盛んです。ある日職場の同僚がナンバープレートとねじ回しをもってオフィスを歩いていました。聞けば車を個人売買で売ってきた、とのこと。そんな簡単に車が売れるのかと思い、手続きを聞いてみると、なるほど簡単です。

1. **買い手を見つける** 当時は新聞広告が一般的でした。日本では個人が車売るために新聞広告を使うことはめったにありませんね。掲載料も高いでしょうし。アメリカではほとんどすべての新聞に個人売買専用のページがあり、安い掲載料でいろいろなものを売り買いできます。広告は商品別に分かれていてすぐに探しやすい。このような広告欄を Classified Ads と言います。車売りたいなら、ここの自動車の欄に広告を出して、連絡を待ちます。まあ今ならインターネットが主流でしょうが、30年前はそんなものはなく、新聞がすべてでした。この Classified Ads は面白い。ありとあらゆるものが売りに出されているので、それを眺めているだけでも一時間ぐらいすぐたってしまいます。車だけではなく、家から船、小さいものでは箸一本まで売りに出ています。
2. **売買交渉** 買い手はたいてい電話で連絡してきます。Classified Ads 広告に車種、年式、走行距離数、保存状態など概略は記載していますが、うるさい人は微に入り細に入り、電話でもあら捜しをしてきます。例えば、タイヤはいつ換えたか、シートはへたっていないか、燃費はどうだ、塗装は剥けていないか、など、結構細かいひとも多いですね。そしてもちろん、掲示価格より値引きするか、です。それで興味があれば見に来るか、その場で買うか、ということになります。ついでに言うと、燃費は Mileage, しかしこの言葉にはもう一つ、走行距離数という意味もあります。この単語の意味は文章の前後の文脈で判断するしかありません。英語は結構文法が曖昧なので、表現の意味を文脈で判断しなければならないことがままあります。
3. **手続き** 商談成立したら、手続きと金銭授受です。売り手は必ず買い手の指定する場所に自動車を

持っていきます。ほとんどが相手の家です。僕が自分のクルマを売った時、買い手の家に行ったら、中へ入ってお茶を飲んでいけと言ってくれ、玄関から入ったら、僕より体の大きなドーベルマンがいきなり抱きついて顔をなめられたことがありました。さて、本題に戻って、手続きはとても簡単です。アメリカは車検証などありませんから、Title という一枚の紙が自動車登録証明のすべてです。これは納税証明を兼ねていて、年一回自動車税を納めると発行されます。ちなみにアメリカの自動車税は日本の 5 分の 1 くらいでした。この Title に所有権移転の署名欄があり、そこに売り手と買い手の名前を書くだけです。お金はほとんどが現金か小切手、今だと電子決済も使われるでしょうが、当時はそれもありませんし、個人売買ですからクレジットカードも使えません。

4. **納車後** 販売代金を受け取りました、その後買い手は売り手を自宅まで送り届けなければなりません。家についたら売り手はその車についているナンバープレートを自分で外します。ナンバーは売り手のものですから、買い手は新しいナンバーを取得しなければなりません。買い手はナンバーのない車で自宅まで帰ることになります。実はアメリカでは、売買が成立してから、新しいナンバーを取得するまで、ナンバーなしで走っている車が、ぞろぞろいるのです。これもお国ぶりですね。
5. **ナンバーの取得** もう一つ買い手がしておかなければいけないことが自動車保険の手配です。アメリカには強制保険はありませんが、自分で自動車保険の手続きをする義務があり、保険を買っていないと、ナンバーを取得できません。保険会社に言って自動車登録情報を提供し、保険料を払って証券を発行してもらいます。そして、買い取った車の Title と、保険の証券をもって州政府の役所に行きます。わずかな名変手数料を払うと数日後に新しいナンバーと Title が送られてきます。そのナンバーを買った車に自分でねじ止めすればすべて完了です。日本の個人売買より簡単だな、と思いました。

自動車保険

クルマを買う前に保険をかけておかなければならない、というのがアメリカの法律です。日本は車検制度があり、強制保険がセットになっていますが、アメリカには車検も強制保険もありません。その代わりに、自分で保険を購入し、その証券を役所に提示しなければ車を登録し、ナンバーをもらうことができ

ません。はじめて僕が自動車を買ったとき、そう言われて保険を申し込みに行きました。アメリカの自動車保険は日本とは制度が根本的に違います。No Fault Insurance と言って、訳せば「無過失責任保険」とでもいうのでしょうか、事故を起こした時、相手に過失があったかどうか関係なく、その損害の賠償はすべて保険を掛けた本人の保険で賄う、そういう制度です。例えば赤信号で停止していた時に、後ろから追突されて車は大破、自分は救急搬送された、といった場合、日本では自分の車の修理代と怪我の治療費の支払いは加害者の責任ですが、アメリカはそういう場合でもすべて自分の保険でカバーします。事故を起こしたほうは刑事罰はありますが、賠償責任はありません。はじめてその保険の仕組みを説明された時、日本の保険制度になじんでいる僕には全く理不尽な制度だと感じられたので、保険屋に「なんで自分が全く過失がなくても加害者がびた一文出さずに自分の保険を使わなければいけないんだ、日本ならすべて加害者負担だぞ」と毒づいたところ、保険屋は苦笑して「アメリカも十年以上前までは日本と同じような制度でした。しかし、無保険で運転して、事故を起こし加害者に賠償できないケースがあまりにも増えたので、事故はすべて自分の保険で処理する、という法律に変わってしまったんですよ」との答え。なるほど、車検も強制保険もない国、なおかつ一人一台車がなければ生きていけない社会では、このような状況も深刻な社会問題になるし、その解決策として、自分の保険ですべて処理する、という法律ができた、というのもうなずける話、と後になって納得しました。ちなみに、このような被害にあって、高額な治療費と車の修理費がかかり、保険会社が全額負担したとしても、自分に過失がない事故の場合は、保険料は一切上がりません。

ではまた次回。

スペインでの思い出



コロナでどこにも行けない日々が続いています。

会長 稲葉 尚子

「昔と違って、気軽に海外に行け、世界は狭くなった。」と思っていたのが、海外どころか、東京や

大阪でさえ不要不急に出かけることは出来ない世の中になってしまいました。

Stay home のストレス解消に昔の旅の思い出 ―今回はスペイン― を書いてみようと思います。

1983年頃の思い出です。理由は忘れましたが、スペインの最南端に近いところに位置するハエンで行われるハエン国際コンクールを受けようと思い立ちました。あまり真面目に考えてのことではなかったと思いますが、とにかくスペイン人の作品を少し弾いてみたいと思い、当時はすでに学校を卒業してしまい、コンクールを受けるという理由でもないスペインもののレッスンを受けることが出来なかったので、「ハエン国際コンクールでスペイン作曲家の曲が課題なので」という理由をぶらさげて、スペインのピアニスト、ローザ・サバテラ先生の門をたたきました。

サバテラ先生はスペインのピアノ界では神様のような人らしいのですが、結婚した相手が悪く、家庭では使用人のように扱われ、でも、当時カトリックのスペインでは離婚が認められていなかったのも、ドイツに逃げ、フライブルク音大でプロフェッサーをしていました。

彼女はまだドイツ語があまり上手でなかったのですが、彼女の全身から溢れる音楽は身振りと言だけで充分伝わってきて素晴らしいレッスンをしていただきました。そして、謝礼は一切受け取らず、「日本でスペインものを是非沢山弾いてほしい。譜読みが難しかったら、私の楽譜を貸すから。指使い、アレンジが全部書き込んであって、きっと半分の時間で弾けるようになるから。今度バルセロナに行ったら持って帰ってくるわね。」・・・というのがサバテラ先生との最後の会話になってしまったのです。

それから、何カ月か経ってサバテラ先生はバルセロナに行き、バルセロナ空港での航空機事故でお亡くなりになってしまったのでした・・・

さて、私はスペインものも何とか形になり、張り切ってスペインに旅立ちました。どのような経路で行ったのかよく覚えていないのですが、スペイン国内で一回乗り換えがあり、グラナダ空港に降り、バスで2時間位かけてハエンに到着する予定でした。ところが、最初の飛行機が大幅に遅れ、乗り換えが危うく、初めての空港内をバタバタと走ってやっと予定の飛行機に乗れ、ほっとしたのもつかの間、グラナダ空港で私の荷物をキャリーに縛り付けていたゴム紐が紛失してキャリーで運べなくなっていたのです。身振り手振りで何とか代用品の紐で荷物をキャリーに縛り付けてもらい、「さあ、町のバスター

ミナルに行こう。」と思ったら、リムジンバスは既に出てしまっていて翌日までなく、タクシーを使わなければなりませんでした。言葉のわからない国、それも当時治安があまり良くなかった南スペインで一人でタクシーに乗るのは気が進まなかったのですが、しかたなく乗り込みました。すると、そのタクシーの運転手はしきりに何かを勧めるのです。どうもハエンまでこのタクシーで行けと言っているみたいなのですが、ガイドブックにはハエンまでグラナダからバスで2時間と書いてあったので、それをタクシーで行ったら料金が払えない金額と思い「No money!!」を連発すると、なんとその運ちゃんは車を止めてしまい、紙に何か数字を書いて交渉してくるのです。「これは変なのに捕まった!」と思い、後は「No!」の連発です。とうとうその運ちゃんも根負けし、「安いホテルに連れていくから」とまた走り出しました。そして連れていかれたのが何とも怪しげな1階がBarになっている宿屋。

とにかく疲れ切っていたので、言われるまま2階に上がりスペインでの第一夜を過ごしました。翌日は1階のBarで朝食をとり、支払いをと言ったら、「Siete」(7)というのは分かるのですが、後が分からない。仕方がないので、日本円にして7,000円ぐらいの額を出したら、そこにいた大勢の人がげらげらと笑い出しました。なんと一泊朝食付きで700円だったのです!

私は当時のスペインの物価を何も知らなかったので、(インターネットなど無い時代ですので)もしかすると、昨日のタクシーの運ちゃんは善意で言ってくれていたのかもしれない、悪かったなと思ったのでした。

飛行機の窓から見た景色もバスからの景色も、見えるものは限りなく続く砂漠に植わったオリーブの木ばかり。ハエンについてすぐ、コンクール事務局で予約してくれたホテルにチェックインし、コンクール事務局のある学校に行きました。すると、そこには私を待っていたスペイン人がいたのです。「サバテラ教授からあなたの世話を頼まれたから。」と言って強引に一緒にホテルに行き、部屋のキャンセルをして、自分の家に連れて行ってくれました。コンチータ家という飛び込み台まで付いた大きなプールが付いた豪邸で、4人家族と、ドイツに出稼ぎ経験のあるメイドさんが住んでいました。「自分の家だと思って楽しんでね。」と言われたのはいいのですが、私の目的はコンクール・・・けれどその家の方々は神様のように思っているサバテラ様から私を頼まれたというので、昼間はハエン観光、夜は社交界のような所に連れて行って「遠い日本からハエンに来てくれたのよ。」と皆さんに紹介してくれて・・・とても「昼間は学校でさらわなければいけないの。」と言い出せませんでした。結局コンクールなど二

の次ですっかりハエンでのホームステイを満喫することになってしまいました。

多分2次予選位で落ちたと思うのですが、
そのコンクールにはパリから4人日本人が
参加していて、5人でコンクールの後スペイン旅行を
しようということに話がまとまりました。

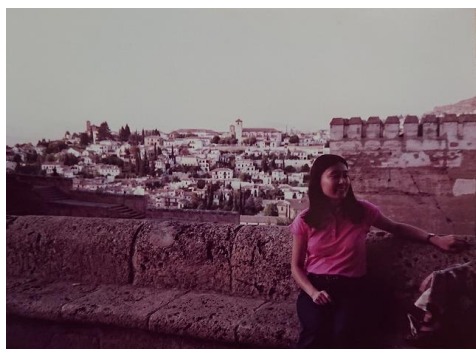
スペインではドイツ語は全く役に立ちませんが、
フランス語は同じラテン系の言語なので何とか
なるのです。グラナダ、コルドバ、マドリッドに宿泊し、
そのうちの1泊はお城のホテルに泊まることが出来、

花いっぱいである明るい太陽のスペインを満喫しました。パリからの日本人たちはそのあとも旅行を続けるようでしたが、わたしは、2日後にはフランクフルトでラジオの録音の仕事、翌週にはオランダで演奏会が入っていて、これ以上帰国を延ばしたら破滅する思い、別れて帰ってきました。

最初のタクシーの運チャンを疑ったのは、私がスペインに発つ少し前にスペイン旅行に行ったフライブルク在住の日本人（大蔵省から派遣の人だったので学生と違い裕福だった）が道で大道芸人の芸を見ている間に有り金を全部掏られたと言っていたからと、言葉でのコミュニケーションが全く取ることが出来なかったからですが、結局このスペイン旅でも好意に満ちたスペインの人たちばかりとの出会い旅でした。



コンチータ家の人たちと



コルドバで



3,000mのシエラネバダ山脈にレンタカーで行くが、高山病で動けなくなる

思い出の中国旅行



会員 相良 恭子

2000年8月私は母を連れて母が生まれ育ち、私も生まれた中国大連に行きました。母がよく大連での子供の頃の話をしていましたので、親不孝をしてきた償いにもう一度連れて行ってあげたいと思いましたが、何度行こうと誘っても「直行便が飛ぶようになってから・・・」などなかなか腰を上げないので76歳の今じゃないともう行く機会がないと思い、パートナーにも「全部準備してさあ行こうと言わないとお母さん行かないよ。」と言われて東京に住む私は旅行の準備をして、愛知県に住む母のパスポートを取る為に姪に「おばあちゃん連れて行ってパスポート取って来て。」と頼みようやく出発することになりました。

当時名古屋から大連の直行便がなくて一番近い羽田からだったらあったので、母に東京に来てもらい早朝に羽田を立ちました。どういう訳か関西空港に立ち寄る便でした。一応「ツアー」となっていたので、そこで他のグループと合流するのかなと思ったのですが誰も居なくて、結局ずっと母と2人の旅行でした。関西空港からだ大連に1時間20分位で着いてしまい私は自分と母の入国書類を記入している間に着いてしまいました。

大連に着くと現地ガイドさんが出迎えてくれ、運転手さん付きの乗用車で旅順（日露戦争の戦跡）に行きました。そこには博物館があり中国語で『中国の子供は必ずここに来て学ばなくてはならない。』と書いてあったのにはびっくりしました。

日本とロシアの戦争の戦場に使われたのですから
関係の無い中国が国が弱いとこういう事になるんだ



大連の街（相良恭子画）

という教訓として子供達に学ばせるようでした。

2 日目の朝、ホテルの 1 階の外の見えるレストランで朝食を摂っていると地下鉄（街？）から人が湧いたように出て来るのにびっくり!!中国って人口が多いんだと思いました。2 日目はこの旅のメインの母の思い出の大連で父親が働いていた旧満鉄本社、引き揚げの時の大連港、父親と魚釣りをした星海公園などに行きましたが、母が一番喜んだのは母が通っていた小学校がロシア建築でガッシリしていてまだ残っていて中学校として使われている事、そしてガイドさんの力で夏休み中の校舎に入らせてもらった事でした。母は口癖のように冬になると校庭に先生が水を撒いてスケートリンクを作ってくれたと言っていました。子供の頃の思い出は何でも大きく見えるようで、私には校庭というより中庭位の広さに見えました。大連市内には私の生まれた病院もあったとのことでしたが、8 ヶ月で日本に帰って来た私には記憶がなく『外国の街』でした。私達 2 人だけのツアーでしたので、ガイドさんや運転手さんと一緒に昼食を摂った時に若い女性のガイドさんとお喋りしましたが、週末には祖母の家に子供や孫が集まるとのことでおばあちゃんが一族の中心とのことでした。又、夏の夕方まだ明るい頃、街を散歩する家族を見かけましたが、夕食後の散歩は普通だそうで、残業で遅くまで働く日本のサラリーマンと対照的でした。大連のガイドさん、運転手さんと別れる時に親切にして頂いたお礼に何かあげたいと思い何が良いか聞くと、「ビール」ということで、ビールは贅沢品でガイドさんはお父さんに、運転手さんは自分で飲むと言っていました。

3 日目はわたしの希望で北京に行きました。天安門広場や故宮などを見ました。故宮を見た時、そのスケールの大きさに、悪い奴は徹底的に悪くないと革命は起こらないんだと実感しました。中途半端に悪いのはガス抜きされて革命までは至らないと感じました。4 日目は万里の長城や京劇、雑技を観ました。万里の長城の後、汗をかいたので、レストランに行く前に着替えの為、ガイドさんと運転手さんにホテルで待っていて貰いましたが、ロビーでコーヒーでも飲んでいて下さいと言ったのですが、コーヒーは贅沢品で高いのでいいですと言って飲みませんでした。北京でのガイドさんは地方出身の女性で「弟が生まれたので実家には帰れない」と言っていました。一人っ子政策の頃でしたが、今はどうなっているんでしょう。

5 日目は本当の中国の人の生活を見たくて「路地裏ツアー」に行きたかったのですが、母が疲れる

と思いホテルの近くを散策すると、テレビで見るような公園で花札をしているお年寄りがいて、お土産の屋台では「毛語録」を売っていて中国語は読めないのですが記念に買いました。帰りの飛行機の中でCAさんが声を掛けてくれ、「日本には何日ご滞在ですか？」と聞かれたので、私が「帰国です。」と答え、「大変失礼致しました。」言われました。母は「中国のマァーヤに間違われたんだね。」と笑っていました。母は中国に行く時、「中国には日本は悪いことをしたのだから、私は派手な格好をしてチャラチャラ行けない。」と地味な服装だったのですが、「私が一番地味だったわね。」と中国の女性の服装を見て笑ってました。

こんなにも喜ぶならもう一度中国に連れて行きたいと思っていましたが、その母も96歳で何も分からなくなり、一生に一度の親孝行になりました。

腰痛改善に努めて



会員 小松 二美

腰は身体の要といいます。その腰を痛めて苦しみ、反省して改善を試みた話をしたいと思います。

元々腰は弱かったです。若い時でも疲れが溜まると腰が固まったような、詰まったような感覚があり、それでもスイミングスクールに週一土曜日に通っていたので、なんとか大丈夫だろうとだましましで見逃してきました。しかし、長年の事務系の座り仕事（朝から晩までパソコンとにらめっこの日々）が祟ったのか、あるいは、ちょうど部署異動も重なって慣れないことでの残業が続いたせいか、40代後半に、ついに私の腰が悲鳴を上げました。たかが小一時間の通勤電車（都内では短い方です）、それでも、立っていても、座れても生汗が出てくる辛さで大変、こういう時期がしばらく続きました。私は独り身だから長く働かなくてはならないのに、このまま立つことも座ることも辛くて最後には歩けなくな

って、とうとう車椅子で行動ということになったらどうしようなど、恐怖感でさいなまれる毎日でした。幸い家の近くに遅くまでやってくれる接骨院があったのでマッサージと針治療で週2、多い時には週3ほど通いました。土曜日は水泳の日なので週末の2日は腰も少しだけ楽になりましたが、月曜日に仕事が始まればまた元の木阿弥、辛かったです。友達にヨガが良いということを聞き、本来ならヨガクラスも受けたいところでしたが、時間もお金もないので、腰痛対策の本を買って、寝る前に寝ながらできる簡単エクササイズを4つほど組み合わせてやることにしました。これはなぜか今でも続いています。しかし、当然のことながら腰痛の改善にはなかなか繋がりませんでした。接骨院の先生が仕事を辞めたら違いうだろうけどねとよく言っていたのを覚えています。

仕事を辞めてこちらに越してきて、パートの仕事にも興味はあったけれど、まずは腰痛改善を主にした体づくりに勤しもうと思いました。引っ越す前に確認をしていたスイミングスクールとフィットネスクラブに通い始めました。水泳はずっと続けたいと思っていたし、ヨガやステップのレッスンにも興味がありました。最寄りで見つけた接骨院へも週一ペースで通っていました。通院やその他で1年に4、5回東京に行きましたが、最初の2年までは3時間半ほどの片道の電車に不安がありました。一日の往復は絶対に無理と判断し必ずビジネスホテルに一泊していました。

スイミングスクールとフィットネスクラブに通い始めて3年ほど経ったあたりからでしょうか、腰の具合が少しずつ良くなり始めて、接骨院にはもう通わなくて済むようになりました。東京への往復もさほど気にならなくなりました。腰痛改善は歳を老いている分時間もかかるし、難しいと分かっているのに、100%完治することは期待していませんでしたが、現段階で60~70%くらいは改善していると思います。やはり、年齢に関係なく、努力は報われる、努力の成果は表れるということでしょうか。思えば、金さん銀さんがまだご健在であった頃、金さんが歩けなくなって銀さんと散歩できなくなったら困ると思い、近所の接骨院で治療とともに筋トレを行っていたという映像をNHKで幸運にも見たことがありました。係りつけの先生が筋肉をつけるのに年齢は関係ありませんと断言していてとても嬉しくなったことを覚えています。東京で良くしてもらっていた先輩、スポーツクラブに何十年と通っている人ですが、その人から良く聞かされた言葉があります。「ふみさん、接骨院もいざという時には頼りになる

けど、自分の身体のメンテは基本自分でしなくちゃだめよ。」確かに私は病院が好きで、痛めたら接骨院か整形外科だな、なんて単純に思って生きてきたので彼女の言うことがちっとも理解できませんでした。自分が経験してやっとその意味が理解できました。悲しいかな、やっと今理解できたのです。

こちらでのスイミングスクールとスポーツクラブは通い始めて6年目に入りました。水泳は通算30年近くとなりました。双方のスクールには90歳前後の生徒さんもいらっしゃるとのこと、私も見習って通える限りずっと続けていこうと思います。そう、やはり先輩のお言葉通り、自分の身体のメンテは基本自分でする事が大切です。大きく壊さないための予防にもなります。

伊東の史跡紹介 — 大室山について



会員 小西恒男

<大室山について>

大室山は約4千年前に活動した標高579.5mの伊豆半島最大の単性火山で、底面の直径1km、比高250mの大型の臼型スコリア丘は、伊東のシンボルとも言える。

山体はほぼ原形を留めており、山頂には直径250mの噴火口がある。北側の岩室山から流出した大量の溶岩流は、広大な先原（さきはら）の溶岩地形を形成している。南斜面には側火口が1つあり、山体形成後にも活動があったことを示している。

以上「伊東の文化財（伊東の市史編纂委員会）」より引用

（1）五智如来地蔵

どちらも大室山山頂にある。正規の登山道を登り切った所に、富士山の方を見て立つ5体が五智如来

尊であり、反対側の海の見える方に並んでいる小さな石仏群が八つ岳地藏尊である。

今から三百年前、寛文中期の頃と思われる（１６６３年）相州岩村（神奈川県足柄下郡）の地頭、朝倉清兵衛の娘さんが９歳で身ごもり、その安産を大室山浅間神社に祈願したところ、無事安産したので、「おはたし」と称してお礼に真鶴で五智如来地藏を作らせ、船で富戸海岸に運び、富戸の強力（ごうりき）に背負わせて、一体を３回に分けて合計１５回にわたり、約百貫の地藏尊を現在の所に安置させたと伝えられている。

昔から、願い事はかなえて下さるというので、安産と縁結びの神として参詣者が多い。戦時中は、息子の安全や、武運長久を祈りながら、山頂へ山頂へと登山した母親や、家族の姿が多くみられた。



五智如来地藏

（２）八つ岳地藏尊

八つ岳地藏尊は、海上安全、海難防除祈願のため、その昔、近隣沿岸の漁師たちが相計り、大島に対面した大室山の山頂である現在地に建てられた８体の石仏である。

ここに立って海上を眺めると、伊豆半島から、房総半島を一望におさめることができる。この海域は、伊豆相模の漁師にとって絶好の漁場であるが、近代的な装備を持たない昔の漁師は、八丁櫓で威勢よくこの海へ乗り出した。広い海の上で目ざす漁場は山を見て決めるのだが、大室山を目じるしに決める「大室立ち漁場」は、あじ・むろあじ・さばの最高の漁場であった。

このことから、これらの漁師の人たちが開運を願った八開き八地藏尊を、大室山山頂に奉納したものである。

（３）浅間神社

大室山の山頂に祭ってある神社で祭神は磐長姫である。

いつから祭られているかはわからないが、昔から「池の浅間（せんげん）さん」として親しまれ、周囲の村々からの大勢の参拝客でにぎわった。

今はリフトの登り口の方に大鳥居を建て、こちらから登る方が多いが、正規の参道は池の方の側にある。村から十足（とうたり）、伊東へ抜ける旧道を登り切った所に、深い森に囲まれて表参道の鳥居が立っている。この参道の左右を二辺とし、神社を頂点とする三角形が、表山２５町歩で、池区の字（あざ）大室山である。

豆州志稿では、「承応３年（１６５４）の札に松平兵庫頭再造と、又同銘の金鼓を懸く。刻みていわく、直則吉久の為に寄進奉ると、古昔山を祀り、後祠を建てたりと見ゆ。慶安中祠宇（しう）を創建するという」と書いている。かなり昔にさかのぼることになる。

明治４１年に野火のために消失して同４５年に新築したが、その後も何回か改修新築された。祭典は７月８日である。

前夜から山に登った大勢の男たちが、山頂でお籠りをする習慣がある。今のように水道の水が使えなかった昔は、このための水を山頂に運び上げるのが大変な仕事であった。力自慢の屈強の若者が、桶一杯の水１０貫程度を背負枠（しよいわく）で背負い、玉の汗を出しながら登山する姿は現代人には想像もできぬ力仕事であり、村の祭典を思う強靱な意志の働きかけが、ひしひしと伝わってくる。

終戦までは、小学生もこの日は暗いうちに起きて早朝に山へ登り参拝した。帰ってくると、たいてい、それで学校はおしまいになった。

大正頃からは、消防が集団参拝する記録があり、これは、今も続いている。

明治の初期に、神社の社格を決めた。官幣大社などの特別なものは別として、地方のお宮は、県社の次が郷社、次が村社、無格社というふうにした。（中略）

各神社から資料を出させて、神社庁のような役所で決めたのであるが、当時の禰宜（ねぎ）さん出会った家に、つぎのような話が伝わっている。「浅間神社は、村社以上になる資格は充分あったが、上の位になると沢山の税金を払わなくてはならないということで、無格社になるよう骨を折った。ところがその反対で、村社にしておけば金がもらえるのに馬鹿を見た。

（４）桜の里の歴史

大室山の麓で、以前は草刈場として最高の適地であった。村人たちは、「穴の原」といって、平らで草刈場として愛されてきた場所であった。

それが昭和２６年頃（炭焼きの最盛期だった）、この場所は２枚づけといわれて、ここにクヌギを植えたのである。なにしろ、村中の人々が炭焼きを職業としていたから、だれも文句を言う人がなかった。原野への植林だけに生育が遅かった。

時代の流れが変わり、昭和３２年頃、酪農振興事業で、農林省から補助を受けた。この場所にブルドーザーが入り、平坦にして牧草をまいたのである。一時は、牛馬の肥料によく刈られた。しかし、これも長続きしないで、牧草地としての機能もはたせなくなった。昭和３３年の狩野川台風により、鳴川水路工事完成の時に、畦に牧草芝を各組で請負って、芝を刈り、鳴川畦に植え付けた事がある。穴の原の牧草より、鳴川畦で牧草を刈る姿がよく見受けられた。

昭和４４年、今度は同じ場所に、成田山の分院を作る事になって、借地料の契約も結び、作るばかりになったが、金が出来なくて契約倒れに終わった。

昭和４６年、今度は公共投資による「桜の里公園」として、伊東市に無償契約で貸す事になり、現在に至っている。今は伊東市の一大公園となり、四季を通じて人が訪れるが、特に４月上旬の桜と菜の花の盛りは見事である。

（５）大室山の水鏡

大正末期の頃、村に悪病がはやった。その頃村にやってきた老人（祈祷師）に祈祷を頼んだら、「昔、池であったのを田んぼにしてしまったので、大室山の神様がお叱りになっている。大室山の水鏡として映って栄えた村だから、早速祠を作ってお守りしなさい」といわれた。

村では、山下（字名）の小川さんの田を買い受け、一畝歩の池を作り（大室山を映す鏡にした）祠も作ってお祈りした。いつしか悪病も治って、その後は見る影もなく忘れられてしまった。

【事務局便り】

この時期、文章を書くどうしてもコロナ禍の事から始めてしまいますが、伊東市もようやく5月末から高齢者向けのワクチン接種が始まるそうですね。 当会の会員全員の接種が終了するのはいつか判りませんが、終了時点で3密に気を付けていくつかの活動をぜひ始めたいですね。 去年延期した英語講演会もそうですが、他にもいくつかイチゴ会で話し合っている案件があります。 皆さんと活発に楽しく活動できることを楽しみにしています。

【編集後記】

今年の春は、気候が良かったせいか、桜の花も早々に散り、もう藤の花が満開、そして終わりそう、季節がいつもより早く過ぎていくように思われます。ついこの前、100号と言っていたNLも、105号になりました。

最初、会長から、今回は、いつも最初に頂ける菊池さんの原稿以外集まらない、というお話をお聞きし、ちょっと心配でしたが、会長の頑張りで、会員皆様から沢山の原稿を頂き、うれしい悲鳴、無事発行できましたこと感謝です。

菊池さんの南伊豆の伝説、興味深く読ませていただきました。続、続、これからもいろんなお話読ませてください。水谷さんの車のお話、今回特に自動車保険のお話、現状の世界の国々のコロナ対策と合わせて、お国の事情でこうも違うのだとおもいました。相良さんの大連旅行、とても楽しそう、いい親孝行できてよかったですね。小松さんの、腰痛のお話、私自身今悩まされていますが、自分で頑張るほかないというお話、そうなんですね。そして、会長のスペインの思い出、外国の女性一人旅、大変ですけどスリルがありますね。最後に頂いた小西さんの伊東の名所大室山の案内、残念ながら今、お客様は案内できませんが、菊池さんの伝説と合わせていいお勉強になりますね。将来を見つめて充電しておきましょう。

題材何でも結構です、皆さんからの投稿をお待ちしています。

最後に、会員の皆様、このコロナ禍を元気に乗り切りましょう！（H. S.）



展望ギャラリーでの英語サロン風景

3月23日



わかばでの英語サロン風景 4月27日

伊東市善意通訳の会 (ISGG)

会長 稲葉 尚子

(事務局) 413-0232

伊東市八幡野 1324-40 主原 一雄

e-mail : larryn@estate.ocn.ne.jp

<http://itosgg.info/>

(編集委員) 稲葉尚子、曾我廣子、加藤達雄



桜の里ライトアップ



コロナで人通りのない桜のトンネル